

作曲家別演奏法《ショパン》

—ショパンのピアノ奏法—

19世紀パリのサロンで生まれた作品の美学をスコアから読み解くこの講座ではショパンを「ショパンらしく」弾くために、その代表的な作品を例にとり緻密な楽曲分析と時代・文化的背景の解説を通して、最もふさわしい演奏をめざします。



講師

久元 祐子 先生

東京芸術大学音楽学部(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。ベーゼンドルファー(1829年製)、ブレイエル(1843年製)、エラール(1868年製)などを所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追及する。2010年、ショパン生誕200年記念年には、全国各地でブレイエルを使つての演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇皇后両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾りベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。2012年、2014年イタリア国際モーツァルト音楽祭に招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。これまでCD12作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特薦盤、レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン「テレーゼ」ワルトシュタイン」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「原典版で弾きたい!モーツァルトのピアノ・ソナタ」(アルテスパブリッシング)、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」(ショパンとブレイエル・ピアノ)「リストとベーゼンドルファー・ピアノ」(いずれも学研プラス)など。国立音楽大学教授 日本ラトビア音楽協会理事、PTNA評議員、久元祐子ウェブサイト <http://www.yuko-hisamoto.jp/>

＜＜曲目＞＞ショパン作曲

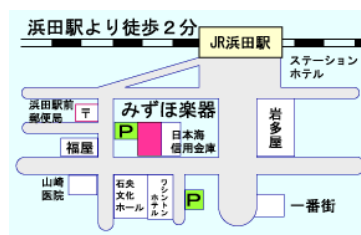
- ♪ワルツ 第3番 イ短調 作品34-2
- ♪ワルツ 第6番 変ニ長調 「小犬のワルツ」 作品64-1
- ♪ノクターン
- ♪エチュード
- ♪マズルカ 作品59

日時: 2018年 2月12日 (月) 10:00-12:00

会場: みずほ楽器浜田店4Fスタジオ

受講料: ピティナ会員 3,000円
一般 2,500円

下記の申込書にご記入のうえ、お電話またはFAXにてお申込みください。ピティナHPからのお申込み(当日支払)も可能です。 <http://www.piano.or.jp/seminar/list/>



JR浜田駅より2分

【主催・お申込み・お問合せ先】

ピティナ島根西部支部

TEL:0855-24-2111 FAX:0855-24-2112

〒697-0022 島根県浜田市浅井町1585(有)みずほ楽器内

◆ 2018年2月12日(月) 久元祐子先生 講座申込書 ◆

氏名	ふりがな	種別	<input type="checkbox"/> ピティナ会員 <input type="checkbox"/> 一般
		e-mail	
住所	〒	TEL	()
		FAX	()

※お客さまが本書面に記載された個人情報は、法令で定める場合のほか、お客さまの承諾なしに他の目的には使用いたしません。